

こどもの幸せを考える

わが子への愛を 世界のどの子にも



国際児童年1979

ことしは国際児童年。一九五九年の国連総会で「児童権利宣言」が採択されてから二〇年に当たり記念すべき年です。この年を記念して国連総会において本年を「国際児童年」と定めて子供の年としての理解を深め努力をする年であります。

子供たちの福祉の向上を目指して自分の子どもだけでなく世界の子どもたちに目を向けて健全な育成環境を国際的な視野で実現するため年でもあるのです。すべての子供たちが健やかに成長していくように子供たちのことを真剣に考え

てみましょう。現在世界の人口は四十億人を越えました。その内子供は十六億人と推定されています。日本の国では約三千万人です。子供達は一人では生きてはいけません。両親が兄弟姉妹が世界中の人達が子供の立場を守り健やかに育てていけるよう権利を保障してやらなければなりません。開発途上の国々で子供達のおかれている実態の中では栄養、飲料水、医療住居など満足に得られない不幸せな状況の中で生活させられている子供達が多くいます。尊い国の宝である子供達が多く困難や障害によって成長が阻まれ人間らしい生活もできずにいるのです。戦争もなく世界中が平和で豊かな、楽しく明るい生活が出来る愛情のこもった二十一世紀であって欲しいと祈りたいものです。

国際児童年に際して

都留保育所保護者連合会長

奥 秋 清

今年になって国際児童年と云う言葉を新聞やテレビ等で見聞きする機会が多くなりました。私も保護者会も国際児童年に際し開発途上国の子供達の幸を願う少しいし役にあたると資金カンパの計画を県保護者連合会内で決めております。子供の幸を願う親の気持はこの

健やかな成長に 願いをこめて

都留保育所連合会長

矢羽 正 子

自由遊びの園庭は子供達の歓声に溢れている。砂遊びに熱中して身体中砂だらけの一団、ジャンブルジムで一段づつこわごわ足の乗せ方、手の位置、体重の配分を工夫しながら登っている年少児。滑り台でいろんな滑り方に挑戦している子、鉄棒で汗をかいている子供達の生活は成長の毎日、遊びを通しての様々な経験が、一つ一つ成長への大切な階段です。

子供を「育てる」ことは「心身を健全に発達させること」であり次代を担う子供達のために、私達

大人は良い環境を形成し、豊かな経験をさせ、健全に成長させる責任があります。文明が進み、何でも手軽に手に入れることが出来る現代だからこそ素朴なぬくもりが感じられるものが大切ではないでしょうか。子供の人格を尊重し、子供自身が持っている逞しい成長の芽を大切に伸ばしていくこと、子供達の明るい笑顔、輝く瞳に囲まれる時、保育に係る私達の責任感が高まって来ます。

核家族化する社会の中で、近年保育ニーズは多様化しています。働く母親に代って児童の保育に当る本来の役割の中で、長時間保育乳児保育、障害児保育など、今日の課題が急増しています。

地域社会との密接な関係の中で、保育園は、子供達の健やかな成長のため努力を続ける毎日です。

です。私達保護者として少しでも園の役に立てばと色々な形で協力しておりますが、なにかをおこなうにも予算がなく思うにまかせません。子供達を交通事故等から守るべく保護者会としても交通安全救済処置としてキャンペーン等を行い資金面の確保をする一方、研修会や球技大会を通じ県都市等市広域交流を深めながら明日の時代を担う子供達の生活環境改善の為に園と保護者とが一体となり協力しあうて実現して行きたいと思っております。多面に渡る関係各位の皆様との御協力を切にお願い致します。